

YRPに火種運動を起こそう！



YRPが発足し移動通信技術の研究開発拠点を目指して2年が過ぎた。この間、研究開発協議会を中心として、新技術の紹介・国際シンポジウムなど興味ある各種イベントが開催され、エキサイトする環境が整ってきたとYRPの住民の一人として感じている。

しかし、世界に冠たる国際研究開発拠点に発展させる為には改革の必要性も見えてきた。既に40社が一つの地域に住み、それぞれの方針で研究開発を進める中、相互の交流・連携を促進できる町作り・人作りが必要である。改革の師として尊敬される上杉鷹山が示した目標を“米沢”から“YRP”に読み替えてみる。

< “忍びざるの心”という、他人への優しさ・温もり・思いやりを、YRPに住む人々全員が持つ事。>

その為には生き甲斐を感じ、家族だけではなく他地域に住む人々・企業を呼び寄せたいと思うような魅力ある環境を作る事であり、新たな事業を創設するとしても、それを行うのは人である。

鷹山は二本目の柱を“人作り”と考え、“興譲館”という学校を作った。最近の技術のスピード・移動無線技術者の不足を考えるとYRPにも同様な施策が望まれる。遠隔教育などの技術も発展してきているので、海外の大学などの講義も受けられるような魅力あるバーチャル学校ができないだろうか。

最後に鷹山の“火種の誓い”で締めくくろう。

< 私が灰の中のこの小さな火種になろう。おまえたちはこの火を受ける黒い炭になってほしい。そして、明日からは米沢城内で火種運動を起こせ。いつかその火が城中に漲れば、やがては飛び火して、町に住む人や村に住む人の胸に飛んで行く。>

参考；童門冬二；小説 上杉鷹山、学陽書房

富士通株式会社 YRP研究開発センター長

横須賀リサーチパーク研究開発協議会 国際部長 樽松 八平

横須賀リサーチパーク研究開発協議会コーナー

平成11年度第3回幹事会の報告

去る2月10日、研究開発協議会の幹事会が開催され、他のサイエンスパークとの連携、ユーレコムからの留学生受け入れ等について審議が行われた。主な内容は以下のとおりです。

1. 他のサイエンスパークとの連携

協議会会員の大半を占める電気通信事業者・情報通信機器製造事業者にとって、今後、電波情報通信技術ソフトウェア、アプリケーション、コンテンツ(以下、アプリケーション等と言う)の充実は極めて重要であり、協議会では国内外のサイエンスパーク、アプリケーション等製作事業者との連携を図る活動を進めている。本幹事会では、アプリケーション等に関わる事業を推進している京都リサーチパークとの業務提携及び希望する会員に対してアプリケーション等の関連会社を紹介する際の窓口を登録いただくことが決定された。今後、海外のサイエンスパーク等とも連携を進めることを計画しています。

2. ユーレコムからの留学生受け入れに関する基本方針

フランス ソフィアアンティボリスのユーレコムからの留学生派遣要請に対応するため、会員に対して研究開発協議会が仲介する留学生受け入れの平均的条件を提示し、意見を聴取してまとめていきます。

3. 平成12年度アジア太平洋電波情報通信技術研究開発アクティビティ調査

平成12年度の調査対象国は、韓国、中国・香港とします。

協議会コーナーつづき

4. ギガビットネットワーク通信回線接続申し込み

モバイルマルチメディアアプリケーション AWAサブワーキンググループがギガビットネットワークを使用した実験を計画しており、協議会名で通信・放送機構に通信回線接続を申し込むことにしました。

京都リサーチパーク(株)(KRP)と新産業創出の活性化に向けて提携



当協議会(会長:羽鳥光俊氏)は、ベンチャー企業育成を支援する京都リサーチパーク(株)(京都市、社長:野村透氏)と、2月24日に業務提携しました。

京都リサーチパーク(株)は、1987年に民間の都市型インキュベータとして設立、同パークには現在、情報通信やマルチメディアのデジタルコンテンツに関わる企業を中心に約130の企業・団体が集積しています。また、西日本地区において産学交流の中心的な役割を果たす拠点として、関西TLO(株)の設立をはじめ産学交流

にも積極的に取り組んでおり、新規産業創出の拠点としての役割を担っています。

これまでベンチャー企業の連携は、主としてベンチャーキャピタリストとの間で行われていましたが、京都との提携はモバイル通信に関するハード、ソフトの連携策でこれまでに例を見ないものであり、日経新聞には「リサーチパーク 横須賀と京都提携 まず次世代携帯開発支援」(2000年2月24日)として大きく取り上げられました。

具体的な事業としては、双方の得意事業に関するノウハウの交換、大学・企業とのお見合いの橋渡しなどから始めますが、今後更に各種セミナーやイベントの共同開催など事業は次第に拡大するつもりです。



「キーデバイスシンポジウム成功裏に終了」事務局からの報告とお礼

2月24日～25日にYRPホールで開催した「YRP次世代端末キーデバイスシンポジウム」は当初の予定を超える、延べ500名強の参加者を集め、併設した展示会も19社の部品メーカーが最新の製品をエントランスホールの全スペースにブースを展開して盛況裏に終了しました。

参加者は、遠くは九州地方から、また中京、阪神地方など、遠くからの参加も多く、これまでにない広範な地方から参集されたことが印象的でありました。また、サービス開始が間近い次世代の携帯端末に焦点を当てた今回の企画は、メーカー各社の設計現場サイドからの参加者が多くあったことも特徴となりました。

参加者の数は当初事務局の予測を超えるものとなり、予稿集の購入希望も殺到したために用意した部数に不足を来たして、急遽増刷を手配しましたが間に合わず、一部の方には後日郵送でお届けすることになり、ご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。

今後についても事務局では、会員の皆様のご意見・ご要望を踏まえて種々の企画を計画しておりますが、皆様方の関心が高いテーマをタイムリーに取り上げて、今回同様盛り上がる催しとするべく努力する所存でありますのでご期待いただくと共に続けてのご支援をお願い申し上げます。

終わりに、今回のシンポジウム開催にご尽力いただきました多くの方々に深く感謝の意を表して事務局からの報告とさせていただきます。



イベント予定

横須賀リサーチパーク研究開発協議会等が今後開催を予定している主なイベントは以下のとおりです。詳細は、YRPニュースやYRPホームページ等でご案内させていただきますが、講演会等については積極的にご参加下さいますようお願いいたします。

開催日	イベント内容
3月11日～12日	最先端の情報通信フェア2000
3月13日	電子情報通信学会Moumac研究会
3月23日	平成11年度第4回幹事会
3月23日～24日	ミリ波国際シンポジウム
4月5日	第5回研究開発トレンド会議
4月7日	第4回総会
5月19日	VTC2000 Spring YRPテクニカルツアー
5月23日～24日	電子情報通信学会ITS研究会

横須賀リサーチパーク推進協会コーナー

第2回「最先端の情報通信フェア2000」開催のお知らせ

昨年開催した第1回目のフェアでは、大学生や院生を中心に約2200名の入場者を数える程の盛況でありました。今年も昨年同様、大学教授・研究機関トップによる特別講演、協賛企業・研究機関の個別ブースや施設見学ツアー等を下記のとおり開催いたします。

「開催概要」

1. 開催日時 2000年3月11日(土)、12日(日) 11時～16時
2. 開催場所 YRPセンター1番館他 横須賀市光の丘3-4

第10回総会の開催(予定)について

第10回総会の開催につきまして、下記により開催準備を進めておりますので、日程調整の程よろしくお願ひ申し上げます。

「第10回総会開催概要」

1. 開催日時 2000年4月4日(日) 16時より
2. 開催場所 YRPホール(YRPセンター1番館内) 横須賀市光の丘3-4

(株)横須賀テレコムリサーチパークコーナー

YRP連絡会 幹事会の報告

3月3日午後3時から、YRP連絡会 幹事会が開催されました。4月早々にYRP連絡会 総会にお諮りする平成12年度の事業計画及び予算について、事務局からの提案に対し活発な意見交換が行われました。

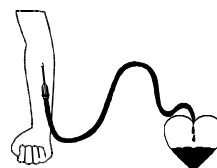
正式には、YRP連絡会 総会で会員の皆様におはかり致しますが、皆様との交流を深めるための様々な行事をご提案する予定です。

【YRP連絡会開催日程】

- 日 時 平成12年4月5日(水) 午後3時から
- 場 所 YRPホール(YRPセンター1番館内) 横須賀市光の丘3-4
- 案 件 平成12年度事業計画及び予算

お知らせ

日本赤十字社神奈川献血センターから「献血」の要請がありました。日程が決まり次第お知らせいたしますので、多数の方々のご協力をお願い致します。



研究所紹介コーナー

通信・放送機構(TAO)横須賀成層圏プラットフォームリサーチセンター

近い将来の本格的なマルチメディア時代に備えて、高速大容量の無線アクセス手段を実現するために、気象条件が比較的穏やかな地上高約20kmの成層圏に大型の飛行船を滞空させて、これを通信・放送のプラットフォームとして利用したり、地球観測用として利用する「成層圏プラットフォーム」の研究開発計画が提案され、科学技術庁および郵政省の関係機関の協力で進められています。

通信・放送機構は、情報通信分野の研究開発や通信・放送事業に関する各種支援などを行う郵政省の認可法人ですが、当リサーチセンターは、平成10年に発足し、図1に示すように郵政省通信総合研究所と連携して、通信・放送アプリケーションの研究開発を進めています。当リサーチセンターは、常勤研究者は4名で、電気通信関連のメーカーや、通信・放送事業者から研究フェローを招聘し、総勢19名の研究グループ体制をとっています。

なお、飛行船本体の研究開発は科学技術庁航空宇宙技術研究所が担当し、追跡管制はTAO三鷹成層圏プラットフォームリサーチセンターが、地球観測等のミッションは宇宙開発事業団、および海洋科学技術センターがそれぞれ研究開発を行っています。

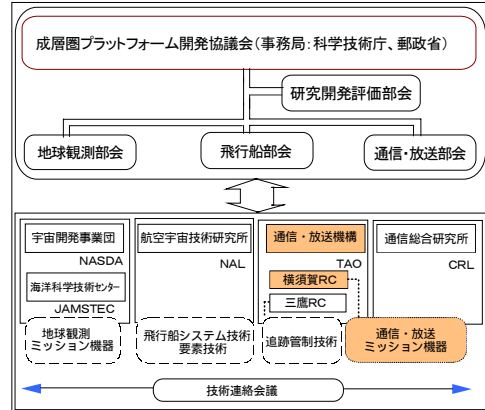


図1 成層圏プラットフォーム研究開発体制

通信・放送システムから見た成層圏プラットフォームの利点は、衛星系に比べて送受信点間の距離が短いので電波の減衰および伝搬遅延が小さく、更に、仰角の高いエリアが比較的広いので、電波の遮蔽、マルチパスの影響を受けにくいことです。このため、高速大容量の伝送に適しています。一方、地上系に比べると、基地局アンテナが非常に高い位置にあるので、大きなサービスエリアが可能となり、システムコストの低減が期待できます。更に、1機ずつシステムに加えていくことができることや、滞空位置を変えることも容易であり、実用に向けて柔軟な展開が可能であるなどの利点が期待できます。成層圏プラットフォームを用いた通信・放送システムのイメージを図2に示します。このシステムの有効性を示すためには、実証機による試験が必要であり、平成14年度以降に実施する予定です。(本文の紹介文は、通信・放送機構よりご提供頂いたものです。)

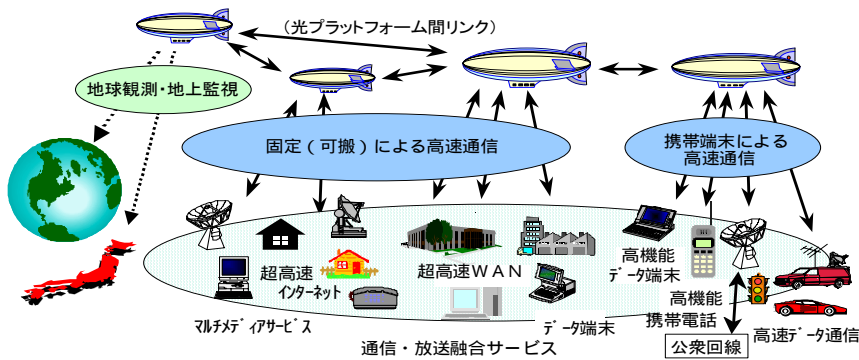


図2 通信・放送システムのイメージ図

編集・発行 横須賀リサーチパーク推進協会

〒239-0847 横須賀市光の丘5 TEL:0468-40-4100 FAX:0468-40-4101

横須賀リサーチパーク研究開発協議会

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL:0468-47-5008 FAX:0468-47-5010

(株)横須賀テレコムリサーチパーク

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL:0468-47-5000 FAX:0468-47-5010 <http://www.yrp.co.jp>